



福島放技ニュース

THE NEWS OF THE FUKUSHIMA ASSOCIATION OF RADIOLOGICAL TECHNOLOGISTS

2021

9月24日号

184
VOL.

発行所 公益社団法人 福島県診療放射線技師会

〒963-0201 郡山市大槻町字原ノ町3-1 TEL/FAX 024(954)7595

ホームページアドレス <http://fart.jp/>

巻頭言

BLAST!



副会長 鈴木 雅 博

新型コロナウイルスも変異を重ね、今、国内で拡大している感染力の強いデルタ株に続き、次はさらにタチの悪いラムダ株が流行しています。いまなお世界各地で猛威を振るっている中、無観客として2021年8月8日、「東京2020オリンピック」が開催されました。日本は、金メダル27、銀14、銅17の合計58個と史上最多のメダルを獲得して幕を下ろしました。(執筆時点では、東京2020パラリンピックが12日間の日程で開催中) このコロナ禍での東京2020オリンピック・パラリンピックの開催の是非においては、日本国民の意見が分断され、賛否両論あったが、困難を克服し、限界に挑むアスリートの姿に、多くの人が感動を覚えたのではないのでしょうか。また、感染患者の対応をしている医療関係者の方々やボランティアなど、大会運営を支えた多くの方々に心から感謝したいと思います。

そんな中、開会式での「ピクトグラム50個の連続パフォーマンス」は大きな話題を呼びました。ピクトグラムとは、公共の施設などでよく使われる、視覚的に意味を伝えるシンプルな絵記号のことで、言葉を使わなくても情報を伝えられる、単純化された視覚記号のことです。ピクトグラムの元祖は、1920年代に教育者・哲学者によって考案されたものが始まりで、現在のようなピクトグラムが広まったのは、1964年の東京オリンピックがきっかけとされています。英語によるコミュニケーションが難しい当時の日本で、外国人とコミュニケーションをとるために使われ始め、東京2020大会のスポーツピクトグラムでは33競技の50種類が制作されました。医療の場においても、患者支援を安心・安全に提供できるように、状態や制限事項など情報共有するためのコミュニケーションツールとして、体の部位、症状、介護や保養など様々なバリエーションのピクトグラムが活用されています。

オリンピック精神が求めるのは、「人間としてのより良い生き方であり、それは努力の内に見いだされる喜びと教育的な価値、そして社会的責任と他者への敬意に基づいている。」とされています。医療の場で働く我々と共感できる部分があるのではないのでしょうか。

医師のタスク・シフト/シェアを推進することから、診療放射線技師の業務を拡大するための法改正が行われました。オリンピック精神同様、他職種連携を通じて、さまざまな視点から多様性と調和の重要性を改めて認識し、診療放射線技師の質の向上と自己研鑽に励んでいきたいと思っています。



福島県立医科大学 保健科学部診療放射線科学科だより

福島県立医科大学保健科学部診療放射線科学科 久保 均

皆さま、こんにちは。原稿執筆時点では、まだまだ残暑厳しいです。COVID-19は想像を超える感染拡大が続いており、先生方もその対応に大変かと思えます。終息しないどころか緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の延長が続き、平時の時の方が短くなってしまっていますね。しかし、我々医療人はその使命をしっかりと再認識し、目の前の患者さんにできることをするしかないですね。命を守るという医療人としての目標達成のために、皆で努力していきましょう。

前回は、4月に着任された先生の中のお二人をご紹介いたしました。今回も、お二人の先生をご紹介いたします。

一人目は、五月女康作准教授です。磁気共鳴画像がご専門ですが、漫画やドラマで画像診断の面白さと深さを広める活動にも積極的に取り組んでおられます。では、五月女先生、よろしくお願いたします。



福島県立医科大学保健科学部診療放射線科学科 准教授
五月女 康 作

2021年4月1日付で福島県立医科大学保健科学部診療放射線科学科の准教授に拝命いたしました五月女康作（44歳）と申します。福島県診療放射線技師会会員の皆様にご場をお借りしてご挨拶申し上げますと同時に、皆様に自身を知っていただくために少しか自己紹介をさせていただきます。

私の母方の実家は福島市松川町にありますため、幼少期から夏休みや正月お盆などのイベント時にはよく福島を訪れておりました。夏には近所の山にカブトムシを取りに行ったり伯父と一緒に椎茸や野菜を収穫したり、冬には大雪が降る中で従兄弟と一緒に駆け回ったり。小学4年生のころ2才上の姉に手を引かれ、二人で緊張しながら新幹線に乗って祖母が待つ福島駅まで大冒険したりと、この4月に着任した時には多くの思い出が久しぶりに脳裏を駆け巡りました。私にとっては福島に赴任したというよりも“帰ってきた”という気持ちの方が上回っておりまして、とても懐かしい思いを携えながら日々働かせていただいております。

私は茨城県立竹園高校を卒業後、一浪を経て北海道大学短期大学部診療放射線学科（現・同医学部保健学科）を卒業し、地元茨城県の筑波メディカルセンター病院に就職しました。この病院は当時とても活発に新規事業を取り込む意識が高く、三次救急、がんセンター、健診事業、災害対応などなど、入職して退職するまでの11年間で目まぐるしく病院が拡張していきました。その間、私は多くのモダリティをローテーションしながらも主にMRIと放射線治療に従事していく中で様々な経験を積ませていただきました。また、学術活動も盛んな病院で多くの研究会や学会に参加させてくれました。これらの経験が今でも私の基盤になっています。11年目に研究職に就く転機が訪れました。任期付という不安定な職への転職には戸惑いや反対もありましたが、今思うとあの時の決断が今日の福島へと繋がっていたのだと思います。

筑波大学、東京大学にて研究職についてからは、主にMRIでの脳機能イメージングに軸足を置いてきました。今の私のテーマの1つは「臨床に脳機能イメージングを落とし込み、非器質的疾患を拾い上げる」ことです。近年MRIの高速化は目まぐるしく進歩してきました。私が初めてMRIを触った20年前に比べるとその差は歴然です。しかしその一方で検査内容は同じ速度で進化したでしょうか？MRIで見つけることができない疾患はまだあります。私は高速化により生みだされた“時間”を非器質的疾患を脳機能イメージングで拾い上げるための“時間”に使えるように、研究で広く使われている脳機能イメージングを臨床に落とし

込むための基礎データやHOW TOに取り組んでいきたいと思います。脳機能イメージングやってみたい、fMRIってどうやってやるの？そんな少しの興味を持ってる方々がいらっしゃったら、ぜひ一緒にやりませんか？若手大歓迎です。ぜひ気軽にご連絡ください。(コロナが落ち着くのを待ってから)まずは何はともあれ福島の美味しい日本酒を交わしながら皆さまと意見交換できる日を待ち侘びております。

そして、18年くらい前からライフワークとして取り組んできた漫画「ラジエーションハウス」は9月に待望の(?)11巻が発売されます。そしてそして今年10月にはドラマ「ラジエーションハウス ~放射線科の診断レポート~」のシーズン2が放映されます。長かった撮影もつい先日(8月下旬)に終わりました。ぜひお楽しみに！

他にもせっかく福島に来たので福島の“地の利”を生かせることに学生たちと一緒に、皆さまと一緒に取り組んでいきたいと思っています。これからもご指導のほどよろしくお願い致します。

五月女先生、ありがとうございました。

二人目は、山品博子講師です。我々の診療放射線科学科では唯一の女性教員で、マンモグラフィや医療社会学といったところをご専門です。山品先生、よろしくお願いいたします。



福島県立医科大学保健科学部診療放射線科学科 講師

山品博子

このたび、4月1日付けで福島県立医科大学 保健科学部 診療放射線科学科の講師として着任しました、山品博子(やましなひろこ)と申します。こうして自己紹介の場をいただきましたことお礼申し上げます。

私は、北海道札幌市の生まれで、高校卒業後、一年の浪人生活を経て、北海道大学医療技術短期大学部(医短)に入学しました。何か明確な目的があったわけではないのですが、いつか大学教員になりたいという気持ちがあり、そのために人と違う道を進もうという漠然とした考えで、医短卒業後、アメリカに留学しました。最初に降り立った地はフロリダ州オーランドで、フロリダ州立セントラル・フロリダ大学付属の語学学校に通っていました。ご存じの方も多いと思いますが、オーランド近郊にはウォルト・ディズニー・ワールド・リゾート、ユニバーサル・オーランド・リゾート、シーワールド・オーランドやケネディ宇宙センターなどがあり、陸海空の夢のテーマパークが集まっています。当然のことながらディズニーワールドの年間パスを買い、英語漬けの脳を休ませるために、夜のパレードを眺めて癒される贅沢な時間を過ごしていました。ある程度、英語耳とコミュニケーション力が付いたところで、フロリダを離れ、カンザス州ウィチタにあるフレンズ大学に編入学しました。編入手続きをしている3か月間は、アメリカ国外に出なければいけなかったため、ニュージーランドのオークランドへ医療通訳の集中講座を受けに行きました。前半の一か月半は医療英語漬け、後半の一か月は実地研修でした。ニュージーランドには当時ワーキングホリデーで滞在されている日本人の方が多く、風邪から美容整形までいろいろな場面の医療通訳を経験しました。しかし残念ながら、あれだけ必死に覚えた医療英語ですが、今はもうほとんど忘れてしまっています。

留学して最初の一年は、もちろん苦勞もたくさんありましたが、フロリダでの遊学とニュージーランドでの冒険で「できる自分」に酔いしれ、まさに勘違い屋さん状態でした。しかし、その後のウィチタでの2年は急転直下、週末の癒しもなければ、課題と小テストに悪戦苦闘の毎日でした。それと同時に、保健・医療について基礎的なことが理解できていないことに気づかされました。アメリカの大学の卒業式は5月で、アメリカでの就職や海外での医療助手の道も考えたこともありましたが、経済的なこともあって日本へ帰国し、大学の恩師から大学院進学を進められ、北海道大学大学院医学研究科国際保健医学分野に進学しました。大

学院在学中は感染症や慢性疾患の予防に関する調査研究を主に行っていました。学問や研究分野は放射線の世界から少しずつ離れていきましたが、診療放射線技師の仕事はとても好きで、大学院在学中は検診施設でパート勤務させていただき、マンモグラフィ撮影認定技師もとることができました。

博士取得後、まず、北海道大学大学院保健科学研究院基盤看護学分野の博士研究員として、慢性心不全やがん看護ケアにかんする研究サポートをしていました。その後、ご縁がありまして、名古屋大学「ウェルビーイング in アジア実現のための女性リーダー育成プログラム」の特任助教・講師に着任し、タイ、フィリピン、ミャンマーでの海外研修をコーディネートしてきました。この間はなかなか研究に勤しむことができなかったのですが、海外研修を通じて改めて研究とその成果の発信の重要性を感じるようになりました。また、技術としてだけでなくマンモグラフィに関する研究をしたいと思うようになり、ある意味リスタートを切る気持ちで、母校である北海道大学大学院保健科学研究院医用生体理工学分野の助教に着任しました。現在は目標にしていたマンモグラフィに関する研究を少しずつ進められています。有難いことに、視線解析技術を用いたポジショニング技術の視覚化の研究発表は、European Congress of Radiology 2020 : ESR/EFRS Radiographer AwardsにてRadiographer Paper Abstract Awardを頂きました。

今回こうして福島県立医科大学の新学部立ち上げにお声頂き、一見遠回りしてきたようにも見えますが、すべての経験がここに導いてくれたと思っています。放射線の教育、研究をここでさらにステップアップしていきたいと思っています。これからもご指導のほどよろしくお願い致します。

山品先生、ありがとうございました。

1期生25名は、初めての大学での定期試験（前期試験）も乗り越えて夏休みでゆっくりしていると思います。9月の最終週には後期が始まります。我々教員側は2年生の準備も始めており、気が抜けない日々を送っています。ありがとうございました。

～会長 「オンレコ」～

1 「第1回執行委員会」

7月6日(火)事務所に、会長・副会長・監事・事務局長・特別事務職の7名が集まり開催されました。活動方針・予算について・第2回理事会・ファシリテーター育成・電子申告・事務員について話し合いを行いました。

2 「第2回理事会」

今回もWebexを使い開催しました。総会でも質問のあった、Web会議での通信雑費について承認されました。ただ会計士からは、「JARTが支給しているから県も支給とはいかない。時間＝給与になるので源泉徴収が必要になるし、実費での考えでは1,000円支給は高すぎる」と言われました。JARTへ通信雑費支給の根拠を聞いているとことです。この議案は第3回理事会でも継続審議を行います。

3 「第11回東北放射線医療技術学術大会 (TCRT2021)」

特別講演、ランチオンセミナー2社、ティータイムセミナー2社、技師会と技術学会の企画（シンポジウム）も多数出揃って来ました。集まった演題は、プログラム委員会で審議してくれました。

実際に保健科学部の会場下見や業者との打ち合わせも行いました。初めてのハイブリッド開催でoViceを使った仮想空間での学会ですが、皆様のご参加をお待ちして降ります。

4 「ファシリテーター養成について」

ファシリテーターとは、告示研修（義務）の実技研修で医師1名と看護師2名のお手伝いを行う方々です。ファシリテーター養成について生涯教育委員会で議論しています。

東北地区からは、48名を養成しますが、県内では10名を養成します。会場は、東北大学と福島医

大保健科学部が手を挙げましたが、JARTの選択で宮城県の東北大学で9月開催となりました。その後、緊急事態宣言等があり、感染拡大防止から11月末頃に延期されました。

ファシリテーター養成が終わった地域から、年度2回以上の実技研修を開始します。

5 「その後の事務所」

研修センター用に、テーブル付きの椅子を20席分購入しました。電話回線を福島市から移設し、

インターネットの設定も完了しています。県知事や監督のインタビューで使うような、技師会用のバックボードも購入しました。いつか事務所からWeb講演を行いたいと考えます。少しずつ必要な備品を増やして行きます。COVID-19が収まれば、皆さんに事務所に来ていただきたいです。



インターネットの設定も完了しています。県知事や監督のインタビューで使うような、技師会用のバックボードも購入しました。いつか事務所からWeb講演を行いたいと考えます。少しずつ必要な備品を増やして行きます。COVID-19が収まれば、皆さんに事務所に来ていただきたいです。

地区だより

県南地区

「県南地区サマーセミナー」開催

令和3年8月21日(土)に、Webにて開催されました。参加者は、会員27名・非会員26名でしたが、職場で皆と視聴されている方も多かったと思われます。

富士フィルムメディカル『AI技術を活用した画像診断支援機能～進化した読影ビューワ SAI viewer～』と題し、話題提供をして頂きました。太田西ノ内病院の大原さんより『院内クラスターを経験して』と題し、クラスター発生と診療再開までの経緯をお話し頂きました。福島県診療放射線技師会 新里会長より『診療放射線技師法改正 業務拡大について』の概要について説明して頂きました。



感染拡大防止やタスクシフトについて、皆さんが興味のある内容でした。今後も、日常業務に役立つように、情報を共有していければと思います。

(國分)

浜通地区

「浜通り地区協議会学術大会」開催

令和3年8月26日浜通り地区協議会主催による学術大会がWebにて行われ、45名の会員の参加がありました。座長は、かしま病院 新妻知之氏に

より以下5題の演題がありました。

いわき市医療センター秋田貴大「注腸X線検査における散乱線分布図の作成」、いわき市医療センター今泉虹輝「鎖骨プレートに対する金属アーチファクト低減アルゴリズムとDual Energy CTの有効性の検討」、南相馬市立総合病院 小山達也「Cone Beam CTにおけるSMARTの有効性について」、常磐病院 富山弘樹「骨シンチに代わる前立腺の骨転移検出のためのDWIBSプロトコルの検討」、かしま病院 阿部公志郎「AiCEを用いた心筋Tlmapの初期検討」

Webによる学術大会は初めての試みのため、多少問題はありましたが、チャットによる質問も多数あり、成功だったと思われます。

まだまだ新型コロナが猛威を振るっています。予断を許さない状況ですが、皆さん頑張ってください。

(菅原)

会津地区

「第1回会津地区協議会委員会」開催

令和3年7月20日(火)に竹田総合病院とWebによるHybrid開催にて行われ、会場8名・Web8名の出席により開催されました。

委員会は、鈴木雅博委員長を議長とし、今年度委員の自己紹介から始まりました。続いて県理事会報告及び令和3年度事業についての話し合いを行いました。毎年参加している会津若松市健康まつりは昨年度に引き続き中止となりました。昨年度1回開

催の会津画像研究会は例年通り3回の開催を予定し、昨年見送った会津乳房撮影研究会も今年度は開催を予定しました。会場での開催が出来れば良いが、今後の感染状況を鑑みながら本委員会同様Hybrid開催も念頭に置いて準備していくことになりました。

(風間)

第11回東北放射線医療技術学術大会

令和3年10月30日(土)~10月31日(日)
 Real会場：福島県立医科大学保健科学部
 Virtual会場：CyPos
 oVice：シンポジウム、一般研究発表
 ※詳細は、ホームページをご覧ください。

県北地区

「県北地区協議会夏季勉強会」開催

令和3年8月28日に開催されました。千代田テクノロジー線量計測事業本部の狩野好延先生より「水晶体線量限度変更に係る法令改正および個人線量計の取り扱いについて」、コニカミノルタジャパン(株)の弦桐聡先生より「X線動画像対応FPD「AeroDR fine motion」一般撮影に関する最新情報」のご講演を行っていただきました。今回、地区では初めてのWeb勉強会ということもあり、事前練習を行いながら本番を迎えました。申し込み方法・通信環境の違い・質疑応答の方法など新しい事が多く、戸惑いもありましたが、当日は42名と、多くの方にご参加いただき無事に開催することができました。次回の勉強会では、今回の勉強会での課題をクリアしていきながらもっとたくさんの方に参加していただけるように企画運営していきたいと思いをします。

お忙しい中、そしてWeb開催と制限が多い中、快く講演をお受けいただいた先生、そして参加された皆様に心から感謝申し上げます。

(三浦)

編集後記

本紙面でご紹介のあった先生はもちろん、福島県立医大診療放射線科の先生方は、意欲的でグローバルに活躍されている方ばかりで、学生さんの将来が大きく広がりますね。羨ましいかぎりです。

令和3年11月6日(土)オンラインで「第5回みちのくこまち合同勉強会」開催予定です。

今回Webでの開催となります。薬剤師さんからの化学療法のお話や、宮城県立がんセンターの大貫先生からマンモグラフィと超音波についてお話いただく予定です。ぜひご参加ください。

(國分)



厚生労働省より「放射線業務従事者等の健康管理等の徹底について」

放射線業務を行う事業主の皆様へ (別添)

電離放射線健康診断結果報告書を労働基準監督署に必ず提出ください
労働安全衛生法令で規定されています

1 電離放射線健康診断は年2回行ってください

放射線業務(엑스線装置の使用の業務など労働安全衛生法施行令第5条第2に掲げる放射線業務)に常時従事する労働者に管理区域に立ち入る方に対し、置い入れ・配置替えの際にその後々が月以内ごとに1回、定期的に、次の項目について医師による健康診断を行わなければなりません。【電離放射線業務防止規程第56条】

- ① 肺ばく露の有無 (肺ばく露の有無と、胸部の腫瘍、内臓と関係、放射線障害の有無、放射線による腫瘍、その他放射線によるばく露に関する事項)
- ② 白血球数と白血球百分率の検査
- ③ 赤血球数の検査と血液常態の両方、またはヘマトクリット値の検査
- ④ 心臓に関する聴心検査
- ⑤ 皮膚の検査

※置い入れ・配置替えの際に健康診断では、次の項目は使用する機器の種類等に依って省略できます。
 ※6か月以内ごとに1回、定期に行う健康診断では、
 ・省略が必要でない認めるときは、ほかのすべての項目の全部または一部を省略できます。
 ・健康診断を行わなければならない場合は前年と同様に1年間で、最低50mSv以上を測定する必要があります。かつ、健康診断を施行する事業主は年1年間に限り5mSvを超えないと認められれば、50mSv未満の場合でも、健康診断を施行する場合は、1年間で50mSv以上を測定する必要があります。

2 電離放射線健康診断結果報告書を提出ください

6か月以内ごとに1回の定期的電離放射線健康診断を行ったときは、遅滞なく、電離放射線健康診断結果報告書(様式第2号)を所轄労働基準監督署長に提出しなければなりません。【電離放射線業務防止規程第58条】

(参考)
 令和3年4月1日から、電離放射線業務防止規程が改正され、曝の全身に受ける年線量限度は、5年間で100mSvかつ1年間で50mSvとなっています。

改定内容の詳細はこちらへ

厚生労働省
 労働安全衛生局 労働基準監督署 (令和3年9月)